2026 年　10 月度　中部品質工学研究会　議事録

1．開催日時　　2026/10/3 (土) 10:00～16:00

2．開催場所　　中部品質管理協会

3．会員参加者<敬称略>　S：オンサイト出席・L：オンライン出席、欠：欠席、書：書記、休：休会

大見	S	牧野	S	横尾	S	城越	S	伊藤	S	舟山	S	出島	S	水田	S
山口(展)	S	黒田	S	山口(直)	S	前田	S	木村	書	北村専務	S	北川	S		
河合	休	杉浦	休	福田	休	池田	休								

4．研究会内容

1）事例相談(秘)

省略

2）ディスカッション:会員増加企画～保有技術の棚卸と研究会紹介動画について(全員)

研究会の強みについて棚卸しを実施し、層別分析を行ったうえで、その内容をまとめた動画を作成した。

3）解説：誤圧法＆利き酒の準備(前田)

誤圧法の解説を実施した。MT法との違いは、数理が簡単で計算負荷が小さいこと、多重共線性がある場合やサンプル数が項目数より少ない場合でも計算できることが挙げられる。サンプル数が十分な場合はMT法の方が判別精度は良い。

4）事例相談：初学者向け教育資料レビュー第3回(黒田)

各ページにおいてそれぞれ間違っている点、おかしな点、修正すべき点などそれぞれ指摘をもらった。
実際に展開する際にどのように行うかによって、全体の作り方が変わるので注意する。
AI製作におけるポイント：マークダウンを利用しプロンプトを作成する。

5）グループワーク：「教材開発：紙コプター・コマ　それぞれ見直し」(全員)

●コマ実験
ダイヤルゲージを使用して、コマの軸とおもりの重心ずれを確認、
振れ量のデータと回転時間との関係を調べる。
準備品(担当)
1.ダイヤルゲージ(城越)
2.マグネットスタンド(城越)
3.Vブロック(山口展)
4.定盤(山口展)
5.コマ本体(前田)
6.マッキー極細※黒色(城越)
●紙コプター
紙コプターの落下挙動について、要因効果図を用いて分析を行った。
ノイズ因子N2（厚紙）は落下への影響が大きすぎるため、別のノイズ因子を検討する。

6）事務局連絡（木村謙）

・RQES2026の論文使用許可が下りたため、
　タカノ株式会社様へ説明を計画する。

・対外発表
　品質工学シンポジウム（10月2日）
　業務改善事例発表大会（10月21日）

・合宿
　場所：あいち健康の森プラザホテル
　日程：11月7日～8日（1泊2日）